

ASIA Indicators

定例経済指標レポート

NZ、先日の利上げを正当化する堅調な景気 (Asia Weekly (3/17~3/20))

～米国の雇用の影響はフィリピンの移民送金にも少なからず影響～

発表日: 2014年3月20日(木)

第一生命経済研究所 経済調査部
主任エコノミスト 西濱 徹 (03-5221-4522)

○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
3/17(月)	(シンガポール)2月非石油輸出(前年比)	+9.1%	+7.1%	▲3.3%
	(フィリピン)1月海外送金(前年比)	+5.9%	+8.8%	+10.1%
3/20(木)	(ニュージーランド)10-12月期実質 GDP(前年比)	+3.1%	+3.1%	+3.3%
	(台湾)2月輸出受注(前年比)	+5.7%	+9.5%	▲2.8%
	(香港)2月消費者物価(前年比)	+3.9%	+3.8%	+4.6%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[ニュージーランド] ～内外需の堅調を背景に景気拡大は続いており、先週の利上げ実施の背景を確認～

20日に発表された10-12月期の実質GDP成長率は前年同期比+3.1%となり、前期(同+3.3%)から減速した。前期比年率でも+3.79%と前期(同+4.76%)から拡大ペースは鈍化したものの、景気は12四半期連続で拡大基調が続いていることに加えて、足下ではその勢いが増す動きも確認されている。世界経済を巡っては中国景気の先行きに対する不透明感がくすぶっているものの、食料品をはじめとする日用品を主な輸出財にしている同国にとってはこうした影響は受けにくく、中国やアジア新興国の内需拡大のほか、米国をはじめとする先進国景気の回復に伴い外需に底入れの動きが出ている。さらに、穀物などの国際商品市況の高止まりを受けて足下の交易条件は上昇基調を強めており、これが国民所得を押し上げることで個人消費を刺激したほか、カンタベリー地震の復興需要や旺盛な移民流入による住宅需要の押し上げなども相俟って投資も堅調な推移をみせている。結果、同国経済は内・外需ともに拡大する好循環が続いており、こうしたこともNZ準備銀が今月13日に3年7ヶ月ぶりに利上げを実施する一因になったと考えられる。なお、分野別では干ばつによる減産の反動で前期の生産が大きく拡大した農林漁業では一服感が出たものの、鉱業や製造業の生産は堅調な推移がみられたほか、内需の底堅さを反映してサービス業は全般的に拡大の動きがみられた。2013年通年の経済成長率は前年比+2.73%と前年(同+2.57%)から加速するなど、比較的堅調な景気拡大が続いていることが確認された。先行きについては、不動産投資規制などの効果発現などによる景気への下押し圧力は避けられないと見込まれるものの、比較的堅調さを持続するとみこまれ、2014年の経済成長率の見通しを前年比+3.0%にやや加速すると予想している。

図1 NZ 実質 GDP 成長率の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

図2 NZ 交易条件指数の推移

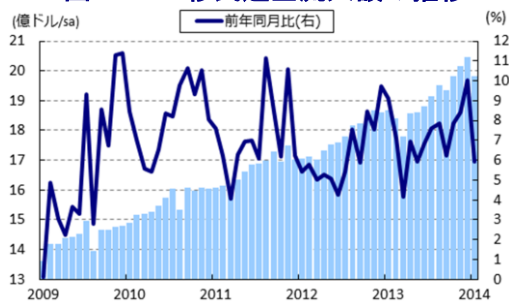


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

【フィリピン】 ～米国の寒波の影響などに伴い一時的に移民送金流入額にも下押し圧力が掛かった模様～

17日に発表された1月の海外送金流入額は前年同月比+5.9%となり、前月（同+10.1%）から減速した。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は4ヶ月ぶりに減少しており、最大の流入元である米国からの流入額が寒波などに伴って雇用に下押し圧力が掛かったことなどの影響で下押しされたほか、中国景気に対する不透明感からアジア域内からの流入などにも下押し圧力が掛かった。なお、昨年後半以降通貨ペソが米ドルに対して大幅に下落しており、ペソ建ての流入額には押し上げ圧力が掛かりやすい環境が続いているものの、減少ペースはペソ相場下落ペースを上回る水準で進んでおり、ペソ建ての場合でも前月比は減少している。

図3 PH 移民送金流入額の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

図4 PH ペソ相場(対米ドル)の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

【シンガポール】 ～中国景気の不透明感はくすぶるが、欧米先進国の底堅い景気は輸出を下支えしている～

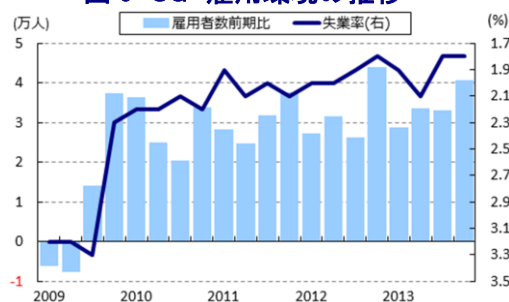
17日に発表された2月の非石油輸出は前年同月比+9.1%となり、前月（同▲3.3%）から2ヶ月ぶりに前年を上回る伸びに転じた。前月比も+7.18%と前月（同▲5.00%）から2ヶ月ぶりに増加に転じており、中国をはじめとするアジア新興国向けは景気の不透明感などを背景に鈍化したものの、米国や欧州をはじめとする先進国向けの堅調が全体を下支えしている。原油を含めた総輸出額は前年同月比+11.3%と前月（同+4.2%）から加速した二桁%の高い伸びをみせており、前月比も+5.9%と前月（同+0.4%）に続いて拡大している。一方の輸入額は前年同月比+6.7%となり、前月（同▲0.9%）から2ヶ月ぶりに前年を上回る伸びに転じた。前月比も+3.7%と前月（同+2.9%）に続いて拡大しており、底堅い雇いを背景に内需が堅調に推移していることに加えて、輸出の底入れに伴う原材料需要の増加も押し上げに繋がっている。結果、貿易収支は+42.89億SGドルと前月（+39.68億SGドル）から黒字幅が拡大している。

図5 SG 貿易動向の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

図6 SG 雇用環境の推移



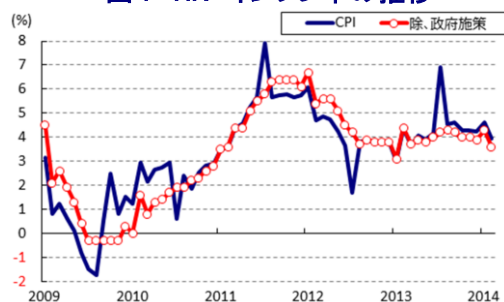
(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

【香港】 ～公共料金引き上げの反動や景気の先行き不透明感などを反映した物価低迷でインフレ率は減速～

20日に発表された2月の消費者物価は前年同月比+3.9%となり、前月（同+4.6%）から減速した。前月比も+0.42%と前月（同+0.51%）から上昇ペースは鈍化しており、食料品価格の上昇圧力はくすぶっているほか、不動産価格も上昇基調が続いているものの、1月に公共料金が大幅に引き上げられた反動が出たほか、先行きの景気に対する不透明感を反映して日用品価格が下落していることも物価上昇圧力を緩和している。なお、2007年以降定期的に実施されてきた公営住宅の賃料減免措置をはじめとする景気下支え策の効果を除い

たベースでも前年同月比+3.6%となり、前月（同+4.3%）から減速している。

図7 HK インフレ率の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[台湾] ~日本向けは堅調だったが、欧米先進国向けのみならず、中国本土向けの鈍化が受注の足かせに~

20日に発表された2月の輸出受注額は前年同月比+5.7%となり、前月（同▲2.8%）から2ヶ月ぶりに前年を上回る伸びに転じた。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比はほぼ横ばいになっており、日本向けは底堅かったものの、欧米先進国向けは軒並み厳しい状況が続いたほか、中国本土向けも春節明けにも拘らず下押し圧力が掛かったことが影響した。

図8 TW 輸出受注の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

以上